

令和元年度 第2回手話施策推進会議

11月1日（金）
10：00～

三木市役所
4階
特別会議室

障害福祉課

手話及び聴覚障害に対する理解の促進を図るための施策

2

手話言語条例啓発ポスター選考

部門	応募学校数	応募者数
小学校 低学年の部	3校	4名
小学校 高学年の部	1校	3名
中学生の部	4校	17名

最優秀賞 全部の応募から1作品を選ぶ

優秀賞 各部門で1作品ずつ選ぶ

(1) 令和元年度市民向け手話啓発講座等について
(10月以降の予定)

月	②市民向け公募講座	対象			
2月	(予定)	公募市民 名 ろう講師 1名 健聴講師 2名			

(2) 絵本の読みかたり

- 令和2年2月16日 手話でみんなのおはなし会
図書館主催 障害福祉課共催で実施予定

令和元年度月別派遣事業（市関係）について （10月以降の予定）

月	行事名	課名	月	行事名	課名
10月	大学との連携講座	企画政策課	12月	総合隣保館文化祭	人権推進課
	地域包括ケア後援会	介護保健課	1月	成人式	生涯学習課
	人権フォーラム	人権推進課			
11月	手話施策推進会議	障害福祉課			
	金物まつり	商工振興課			
	意思疎通事業運営委員会	障害福祉課			
	三同教研究大会	人権推進課			
	ボランティアフェスタ	市民協働課			

令和元年度小・中・特別支援学校の手話啓発講座実施予定 （10月以降）

月	小・中学校名	対象	月	小・中学校名	対象
10月	1三樹小学校	4年生 45名 ろう講師 2名 健聴講師 4名 補助講師 2名	11月	7口吉川小学校	4年生 14名 ろう講師 1名 健聴講師 2名
	4 東吉川小学校	4年生 16名 ろう講師 1名 健聴講師 2名		11 自由が丘中学校	1年生 125名 ろう講師 4名 健聴講師 8名 補助講師 4名
	11広野小学校	4年生 64名 ろう講師 2名 健聴講師 4名 補助講師 2名		15 吉川中学校	1年生 39名 ろう講師 1名 健聴講師 2名 補助講師 1名
	28志染小学校	4年生 9名 ろう講師 1名 健聴講師 2名	12月	6 緑が丘小学校	4年生 53名 ろう講師 2名 健聴講師 4名 補助講師 2名

令和2年度事業実施計画（案）について〔1〕

1. 手話及び聴覚障害に対する理解の促進を図るための施策

- 広報みきへの定期掲載
- 手話動画の配信
- 手話言語条例をテーマとしたポスター募集
- 図書館等で実施する絵本の読みかたり者を育成・支援
- 市民向け手話啓発講座を開催
- 住民学習で手話啓発講座を開催
- 公民館セミナーで手話啓発講座を開催

令和2年度事業実施計画（案）について〔2〕

2. 市民が手話により情報を取得し、意思疎通を図る機会を拡大するための施策

- 市の事業に手話通訳者等を派遣
- タブレット貸出による遠隔手話通訳を実施
- 市職員、消防署員に対する手話講習会を実施
- 市職員対象に庁内掲示板（メール）によるミニ講座実施
- 小・中・特別支援学校の手話教室を実施
- 高校の手話教室を実施
- 教職員に対する手話研修会を実施（年1回）
- 市内事業所で手話研修会を支援

令和2年度事業実施計画（案）について〔3〕

3. 手話通訳者の配置の拡充及び処遇改善など手話による意思疎通支援者のための施策

- 設置手話通訳者の配置
 - 手話奉仕員養成講座の開催（全40回）
 - 手話通訳者養成講座の開催（北播磨）
手話通訳Ⅰ〈夜〉（全36回）・手話通訳Ⅱ〈昼〉（全34回）
 - 三木市登録手話通訳者研修会の開催
 - 手話通訳者全国統一試験対策講座の開催
 - 手話啓発講座講師養成講座の開催（全2回）
 - 手話啓発講座講師研修会の開催
-

	事業内容	現状	課題	5年後までの目標	具体的な取組内容
手話言語条例 第2条	聴覚障がい者の社会参加を支援	聴覚障害への理解や、聴覚障がい者の社会参加を支援する事業が手話通訳者派遣事業や設置事業のみになっている	更に推進する施策が必要	ろう者のための日本語教室などを実施し、聴覚障がい者とふれあえるようなイベントを企画する	ろう者の日本語教室を検討する ・聴覚障害への理解のためのイベントを検討する

手話及び聴覚障害に対する理解の促進を図るための施策

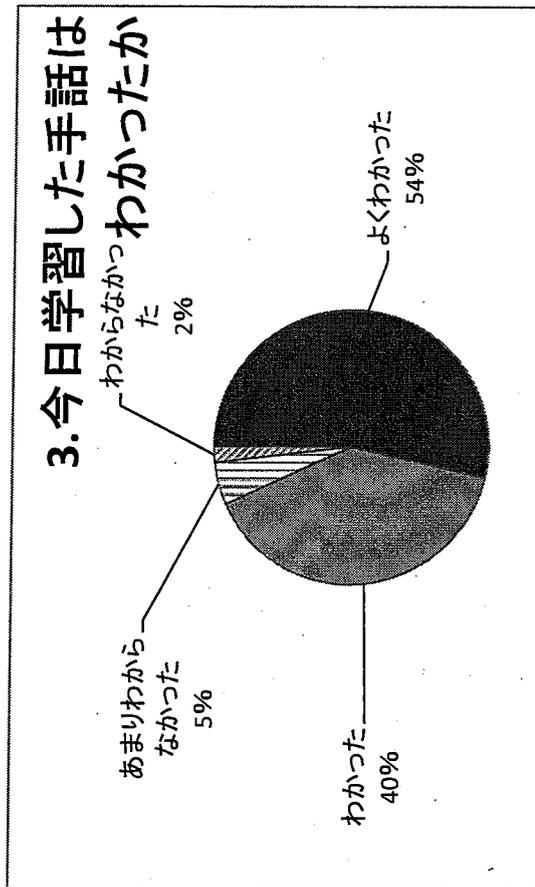
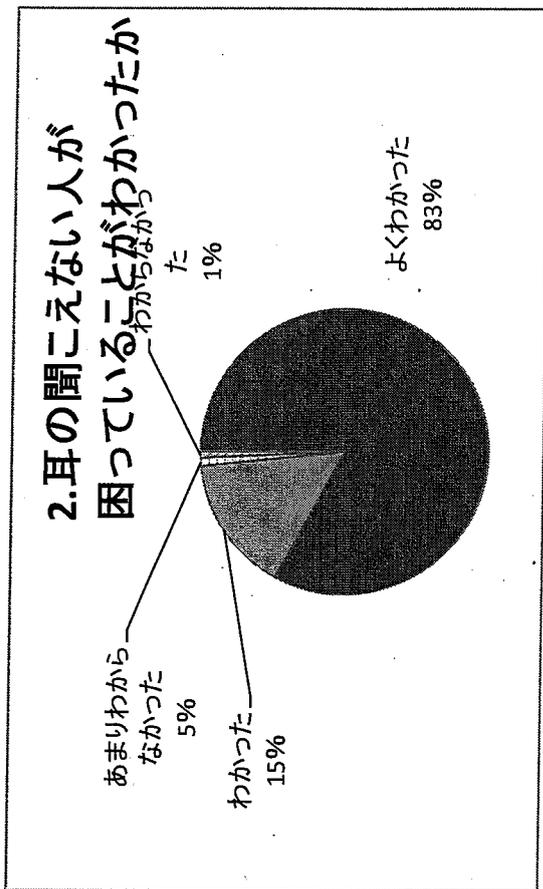
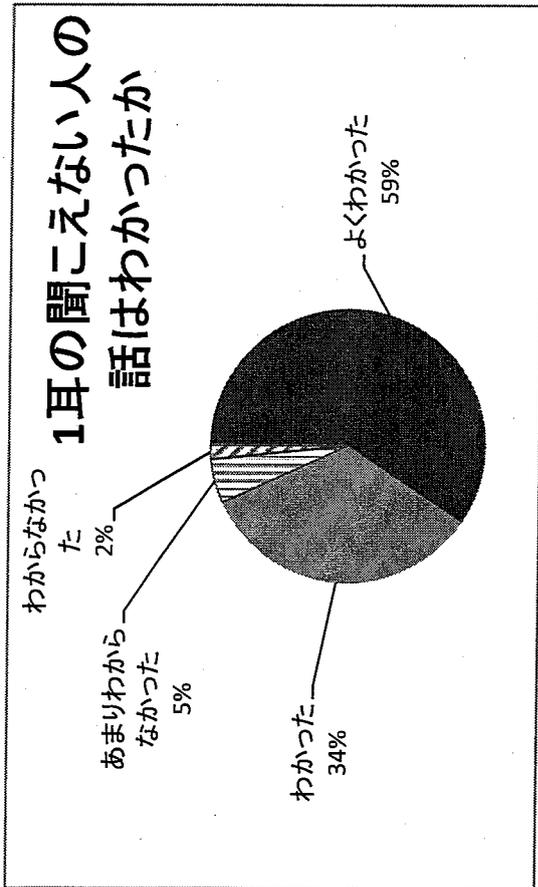
2-(1)ア 手話が言語として認知され、聴覚障害についての市民の理解が深まるよう、市民の広報紙やパンフレット等により啓発を行う。	事業内容	現状	課題	5年後までの目標	具体的な取組内容
2-(1)イ 市民が手話に親しむことができるよう、手話に関する講座や講習会等を開催し、手話に対する認知度を高める	広報みき掲載	年1回程度、掲載	条例について知っている市民が少ない	広報みきに定期的に掲載する	・手話言語条例についてや聴覚障害者について定期的に掲載する
	手話動画の配信	YouTubeの三木市公式チャンネルに手話動画を配信	動画の数が少ない	動画の数を増やし、内容についても市民の意見を取り入れる	・どのような内容にするのなかなど、動画について検討会を設ける
	手話啓発にかかるとかかるポスターを募集	市内の小・中・特別支援学校でポスターを募集	・審査の方法 ・表彰の方法	継続的にポスターを募集する	・募集要項、審査、表彰について検討する
	絵本の読みかたり実施者や支援者育成	・月1回図書館担当者との会議を実施 ・令和2年2月16日「手話でみんなのお話し会」開催予定	読みかたり者の数が少なく、同じような内容になっている	読みかたり者が何冊かの絵本を担当できる	・読みかたり者育成のための研修を実施する
	市民向け手話啓発講座の実施	市民向け手話啓発講座を年に1度実施	受講者が減ってきている	・受講者を増やす ・奉仕員講座につなげるようにする	・広報、公民館にチラシを置く以外に周知する方法を考える ・関西国際大学に働きかけ学生の受講者が増えるよう考える

市民が手話により情報を取得し、意思疎通を図る機会を拡大するための施策

事業内容	現状	課題	5年後までの目標	具体的な取組内容
2-(2)ア 市の行事等に積極的に手話通訳者を派遣する	聴覚障害者または聴覚障害者と意思疎通を図る必要がある人に対して手話通訳者を派遣	手話通訳者が減少している	手話通訳者を10人増やす	<ul style="list-style-type: none"> 手話通訳者養成講座の受講を促進する 通訳者の報酬について検討する
2-(2)イ 市役所等で、手話が使いやすい環境づくりを進めるため、市職員に対する手話に関する講習会を実施する	タブレット貸出 消防署員向け手話講習会を実施 市職員向けに啓発講座等を実施	<ul style="list-style-type: none"> タブレットの具体的な使用方法が決まっていない 毎年似たような内容になっている 市職員が率先して手話技術を習得し、聴覚に障がいがある方への窓口サービスの上向のため講座を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所に来れない聴覚障がい者に対し、タブレットを貸し出し遠隔で手話通訳を実施 救急、消防の現場に通訳者が到着するまでの間に必要な手話を身に着ける 新任研修の中に手話研修を盛り込む 窓口対応職員向け研修を定期的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットの使用について、聴覚障害者と一緒に検討する 新採用職員と現任研修とを分けるなど研修内容を検討する 総務課と職員研修について検討する
2-(2)ウ 小学校、中学校、特別支援学校において、子どもたちが手話と親しみ、学ぶ活動が実施され、手話に関する研修の機会を確保する	小学校・中学校・特別支援学校の児童及び生徒に対し手話学習を実施 小学校・中学校・特別支援学校の児童及び生徒に対し手話講習会を実施 市内の2校の中学校は未実施	<ul style="list-style-type: none"> 未実施の中学校でも手話啓発講座を実施する 小学校、中学校それぞれのカリキュラムの再検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 市内全部の小学校、中学校、特別支援学校の児童及び生徒に対し手話啓発講座を実施する 教職員が手話言語条例を理解し教育現場で条例が活かされるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 未実施の中学校を訪問し説明する 小、中、高それぞれに合ったカリキュラムを再検討 啓発講座の内容の説明や実施のお願いが中心だったが、講座自体は定着しつつあるので、教職員研修として手話言語条例に重きを置いた内容にシフトする
2-(2)エ 市内の事業所等において、手話に関する理解が深まるよう、チラシの配布や事業所等が行う手話講習会等の開催を推進し、支援する	市内の県立高校において手話啓発講座を実施 聴覚障害者が勤める事業所に対し手話講習会の実施を継続支援 事業所向けにリーフレットを作成し、配布を行う	<ul style="list-style-type: none"> 高校生向けのカリキュラムを再検討が必要 新規の事業所での実施 それぞれの職種に必要な内容にするにはいくつかパターンが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 市内全部の高等学校において手話啓発講座を実施する 新規の事業所での手話啓発講座の実施 市内病院での手話研修の実施を支援 それぞれの職種に対応したリーフレットの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生向け啓発カリキュラムを検討する 医療関係の手話研修の内容を検討する 医療機関向けのリーフレットを制作する

手話通訳者の配置の拡充及び処遇改善など手話による意思疎通支援者のための施策

事業内容	現状	課題	5年後までの目標	具体的な取組内容
2-③ア 手話通訳者及び要約筆記 者等を育成する	設置 設置 手話通訳者の配置 手話通訳者3名(交替) 年40回の講座を実施 受講者(令和元年度)13名	手話通訳者の派遣により、 意思疎通支援者の派遣 や啓発講座が増え、設置 手話通訳者の業務負担 が増えている ・申込者・受講者が減少 している ・講師の数が足りない 受講者のレベルがそろつ ていない	手話通訳者(士)の正規職員採用 をめざす ・申込者・受講者の人数を増やし、 講師を養成する ・継続的な実施	・他市の雇用状況を調べ、正規職員化 にむけて検討する ・申込者が増えるよう周知方法を検討 する ・講師養成講座の参加費に補助を出 す 北播磨地域で協力して受講者を増や し統一試験合格者を増やす
2-③イ 手話の技術並びに障害障 害に対する理解を広げるた めの指導者を育成する	啓発講座等の指導者 養成 ・手話啓発講座の講師を養成する ため講師養成講座を年に一度実 施 ・新規の指導者養成講座を見学し てもらい講習内容の復習を実施 ・外部講師を招き講師の資質を高 める	・講師の数が足りない ・主講師は事前に学校訪 問したり進行内容が大きい 講座の内容にばらつき が出ないよう講師の質を 高める	・講師の人数を増やす ・現任研修や意見交換会を定期的に に行う	主講師は負担が大きいため主講師手 当など検討する アンケートの結果や報告書の内容が 反映されるように連絡会などを実施す る



4. 今日学習したこと他に、知りたいこと、聞きたいことはあるか

(多かった意見)

- ・手話を知らない人とうやうやって話すのか
- ・手話を覚えるのに、どれくらいの時間がかかりますか
- ・手話でなんでも表せるのか
- ・手話は何種類くらいあるのか
- ・他の手話も知りたい
- ・電話はどうしているのか
- ・朝起きる方法は

令和元年度 手話啓発講座 アンケート集計 (令和元年度 4月～9月)

学校・ 団体名	日	人数	1			2			3					
			よく わかった	わかった	あまり わからな かった	よく わかった	わかった	あまり わからな かった	よく わかった	わかった	あまり わからな かった			
緑東小	7/1	71名	23	33	10	3	56	11	2	0	27	29	9	4
自由東小	7/5	59名	19	23	8	3	37	13	2	1	12	31	5	4
三木東中	7/12	131名	92	33	1	0	115	11	0	0	81	44	1	0
三木東高	7/16	186名	121	61	3	1	166	20	0	0	112	68	6	0
青山公民 館	7/23	16名	15	1	0	0	11	5	0	0	11	5	0	0
就労A事 業所	8/24	43名	24	14	3	2	24	15	1	3	21	16	4	2
豊地小	9/10	4名	3	1	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0
平田小	9/11	40名	22	15	3	0	32	8	0	0	19	19	2	0
計 (4月 ～9月 末)		550名	319	181	28	9	445	83	5	4	287	212	27	10